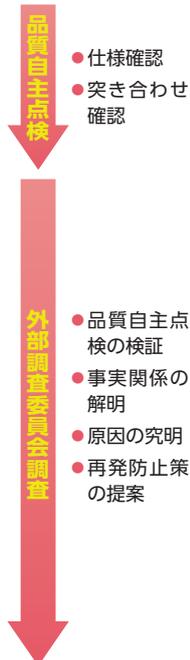


## ■これまでの経緯

- (2016年)
  - 6月 ◆ 神鋼鋼線ステンレス株式会社におけるJIS法違反発覚
  - 11月 ◆ 品質管理強化のために、当社本社部門に品質統括室を設置
- (2017年)
  - 4月 ◆ JIS等の品質に関する公的規格のみならず、顧客仕様に違反して出荷されている製品の有無を確認するため、当社の全事業部門を対象として、本社主導による品質監査を開始
  - 8月初旬 ◆ 当社グループ全体に対して、過去1年分(2016年9月から2017年8月)の出荷実績に対する**品質自主点検**を9月から実施することを要請
  - 8月末 ◆ 品質自主点検を一部先行実施していたアルミ・銅事業部門の4事業所にて、品質検査における不適切な取扱いを発見し、社長に報告  
その後速やかに不適合品の出荷を停止
  - 9月1日 ◆ 事業部門による品質自主点検と本社部門による緊急監査を開始
  - 10月8日 ◆ 当社および当社グループ会社における**不適切行為を対外公表**
  - 10月26日 ◆ 品質自主点検や緊急監査が概ね完了したことを受け、これまでの安全性の検証状況および「**外部調査委員会**」の設置を公表
  - 11月10日 ◆ 当社としての原因究明と再発防止策を公表  
取締役会の諮問機関として「品質ガバナンス再構築検討委員会」を設置
  - 12月21日 ◆ 外部調査委員会による調査完了時期の延期を公表  
アルミ・銅事業部門の3名の執行役員に委嘱業務を変更
- (2018年)
  - 1月1日 ◆ 本社に品質統括部を設置
  - 3月6日 ◆ 「**当社グループにおける不適切行為に関する報告書**」を公表  
代表取締役辞任等の公表
  - 3月9日 ◆ 山口代表取締役社長就任の公表



## ■原因分析

### I. 収益偏重の経営と不十分な組織体制

1. 本社の収益評価に偏った経営姿勢
2. 本社による統制力の低下
3. 経営陣の品質コンプライアンス意識の不足
4. 事業部門内における監査機能の弱さ
5. 本社による品質コンプライアンス体制の不備

### II. バランスを欠いた工場運営と社員の品質コンプライアンス意識の低下

1. 工程能力に見合わない顧客仕様等に基づく製品の製造
2. 受注の獲得と納期の達成を至上命題とする生産・納期優先の風土
3. 事業部門を横断した人事交流や人事異動がほとんど存在しない閉鎖的な組織
4. 社員の品質コンプライアンス意識の鈍麻
5. 不適切行為の継続

### III. 不適切行為を容易にする不十分な品質管理の手続き

1. 改ざんまたはねつ造を可能とする検査プロセス
2. 単独かつ固定化した業務体制
3. 遵守することが困難な社内規格の設定

## ■安全性検証の状況 (2018年5月18日時点)

過去1年分を対象とした当社グループの品質自主点検および外部調査委員会による調査の結果、検出した不適合品を納入したお客様、また、直接の納入先以外のお客様の製品において、即時使用を停止する、または、直ちに製品を回収することが必要であると判明した事案は確認されておりません。

### ① 2017年10月26日時点で不適合製品の納入先として公表した525社

一定の安全性確認が完了しているお客様  
525社 (進捗率100.0%)

### ② 外部調査委員会設置後に判明した不適切行為の対象となる163社

一定の安全性確認が完了しているお客様  
162社 (進捗率99.4%)

## ■再発防止策(概観)

### I. ガバナンス面 [品質ガバナンス体制の構築]

1. グループ企業理念の浸透
2. 取締役会のあり方
  - ・ 独立社外取締役の構成比を3分の1以上
  - ・ 「指名・報酬委員会」の設置
  - ・ 会長職を廃止、独立社外取締役から取締役会議長を選出
  - ・ コンプライアンスと品質を総括する取締役の配置
  - ・ 外部有識者のみで構成される外部品質監督委員会の設置
3. リスク管理体制の見直し
4. 事業部門の組織再編
5. グループ会社の再編
6. 事業部門間の人事ローテーションの実施
7. 現場で生じる諸問題の掌握
8. 「品質憲章」の制定と品質保証体制の見直し
9. 事業管理指標の見直し

### II. マネジメント面 [品質マネジメントの変革]

1. 品質マネジメントの対策
  - ・ 品質保証マネジメントの強化
  - ・ 「品質キャラバン隊活動」による現場の問題解決支援の実施
2. 品質保証人材の教育・育成
  - ・ 人材のローテーションや育成の実施
  - ・ 品質憲章に基づく社内教育の強化

### III. プロセス面 [品質管理プロセスの強化]

1. 品質管理プロセスの見直し
  - ・ 試験・検査記録の自動化推進とデータ入力の一作業の極少化
  - ・ 出荷基準の一本化による不適切行為の機会の排除
2. 新規受注の際の承認プロセスの見直し
3. 製造プロセス変更時の承認プロセスの見直し
4. 設備投資における品質リスクアセスメントの推進